



教育センター・育成センター所報

GALILEI

夢の森公園にて 珍しい植物発見！



翌日 大きなカサを広げていた！
カサの下には、
マントのようなものが...



その名は… マントカラカサダケ

カサ 約20cm
高さ 約45cm

CONTENTS

- 今月の巻頭言 P 1
 - ★雑感いろいろ 新潟工科大学・工学部・環境科学科 准教授 小野寺 正幸
- 教育センターだより P 2
 - ★アクセス（教育研究班） P 2
 - ★プロジェクト K（科学技術教育センター） P 6
 - ★心の窓（教育相談班） P 10
- 10月の行事予定表 P 12
- 所員随想「つれづれ」 P 12
 - ★まほうのことばのコミュニケーション 教育研究班情報指導員 草間 宏樹

平成25年9月号

柏崎市立教育センター 柏崎市青少年育成センター

雑感いろいろ

教育センター運営委員
新潟工科大学・工学部・環境科学科
准教授 小野寺 正幸



2020年の第32回夏季オリンピックの開催地が東京に決定しました。原発事故の影響等で厳しいかと思っていましたが、1回目の投票並びに決選投票でいずれも1位の票数でした。東京での開催は、1964年の開催から56年ぶり2回目となります。個人的には、まだオリンピックを開催したことのないイスタンブールでもよかったのではと思っていました。東北の復興が思うように進んでいるとは思わないし、何と言っても福島第1原子力発電所事故での東京電力や国の対応のまずさや財政再建等、オリンピック開催の前にやらなければならないことが山積しているのではと思っています。実際、東京オリンピック開催決定後の報道の中には、これからオリンピック開催のためのインフラ整備に当初予定していた1,500億円では足りず4,000億円以上だとか。いったいどれ位の借金を後世に残すつもりなののでしょうか？アベノミクスで本当に財政立て直しになるのでしょうか？結局は八方美人のばら撒きに終わって気づいてみれば借金だけ残ってしまったとならなければ良いのですが。もちろん、7年後の東京でのオリンピック開催が、今の日本のこの閉塞感を吹き飛ばす起爆剤の一つになり、さらには、東北の復興が加速されることを願ってやみません。

決選投票で争ったイスタンブールは、ボスポラス海峡を挟んで、西はヨーロッパ、東はアジアとかつての東ローマ帝国やオスマントルコ帝国の首都として栄えた都市です。現在もトルコ国内では人口が一番多く、世界的な観光地としても有名です。また、トルコは非常に親日的な国としても知られています(しかし、日本人はそのことをあまり知らないかもしれません)。1887年のエルツェルル号遭難事件(現在のトルコの小学校の教科書に記載されているとのこと)や1914年の日露戦争で当時のトルコの宿敵ロシアを日本が破ったこと等がトルコ人の日本人に対する好意の理由みたいです。トルコは、第2次世界大戦後の日本の国連加盟に強力な支援をし続けてくれました。イラン・イラク戦争の時に在イラン日本人200名以上の救出のために2機のトルコ航空機をテヘランへ派遣し、無事にイランから救出されました。ちなみに、この時、日本政府は日本航空の派遣を諦めていました(もちろん自衛隊機の派遣等は論外でした)。阪神大震災の際にも、神戸に救援隊を派遣し、献身的な活動を展開していただきました。このような事実を日本人はもっと知るべきだと思います。

筆者は、昨年9月に第15回ヨーロッパバイオテクノロジー会議に出席するため、イスタンブールに滞在しました。中心街は自動車渋滞等がみられましたが、地下鉄やトラム等公共交通のインフラもかなり充実している都市だと思います。イスラム教の国ですが、アルコール飲料も購入出来、また、治安も悪いとは思わず、旅行するには大変素晴らしい所ではないでしょうか。ホテルの受付では、片言の日本語を話せる人もいたりして確かに日本に親しみを感じている人もいるのだなあとと思いました。

■ 実施研修講座を振り返って

すでにある「知識」を理解するだけが学びではない！

◆8/19(月) 探究する力が育つ場をつくろう！ 東京コミュニティスクール校長 市川 力 様

この講座は、毎年、東京コミュニティスクールの市川力先生を講師にお招きし開催しています。市川先生は、現在の子どもを取り巻く環境を「学ぶ必然性が見えにくい、ある程度豊かな成熟社会」と判断され、「みんなでたくらみ、自分たちなりの発見をおもしろがる」プロジェクト型授業の必要性に触れられました。

困難な課題にたくましくしなやかに挑ませる

そこでは一つの事例として「子ども一人の力で車は動かせるか？」という課題に対して、「スパイ大作戦」の如く、様々なタイプの子ども達が英知を結集して取り組んでいく姿がありました。広い駐車場に実際の車をロープで牽引させる中で、子どもの言動に時に寄り添い、時に突き放す支援が、先生と子どもたちの協働の中で行われていました。このような活動を繰り返すことで、実社会と直結するような困難な課題を、たくましくしなやかに挑んでいく力を身に付けていくのだなあ、と確認しました。

正解でなく最適解を導き出す過程が大事

参加された先生方の感想には「大人も本気になって面白いと思えるようなものでなければ、子どももやってみたくて感じないはず。教師として初心に返った時間でした。」「正解でなく最適解を導き出す過程は困難も多く、子どもたちもあきらめがちになるもの。しかし、工夫と改善を繰り返し、そこにたどり着いたときの喜びは一生忘れないはず。子どもにこんな経験をさせる授業を考えていきたい。」等、授業づくりへの意欲を刺激されるような記述が多くありました。



講師の市川力先生

自分の手立てで、子どもの姿が変わっていくシナリオを胸躍らせながら描きましょう！

◆8/22(木) 学級の実態改善を図りながら学力を高める授業づくりゼミ③ 担当 山田 智

学級の状態は学力向上に大きくかわります。「子どもが落ち着かない」「教師と子どもとの絆が弱い」等の実態があれば、実態の詳細を分析し、要因も個別に推察してみます。

次に、短期的に目指す姿を設定、(小) 単元レベルで授業のねらい、学習課題、形態等を継続して工夫しその取組を評価していく必要があります。

今回のゼミでは、参加者が直面している実態に即し、単元のねらいにも「学ぶ姿勢」を含めたり、継続して講じる手立てを設定したりして意見交換しました。その後、単元構想を「変容のシナリオ」として胸躍らせながら生き生きと描くことにチャレンジしてみました。

参加された先生方の感想には「自分が個々の子どもの実態を詳細に分析していないことに気づきました。当然のことですが、これが改善に至らない要因でした。」「単元のシナリオを手立てとともに描いていくと、課題の工夫等だけでなく、子どもの態度形成がとても大事で、これなくしてやりたいことは何もできないことが改めてわかりました。」など、今後の授業づくりへの意識改革が伝わるものがありました。



意見交換する様子

大切な校内体制の構築 ～効果的な取組を伝え合い、継続、発展させていく～

◆8/22(木) スクールサポート事例研修

事例発表 第一中学校 関根 一美 様

講師

上越教育大学 教授 加藤 哲文 様

この講座は、講師に上越教育大学の加藤哲文教授を、事例発表に第一中学校の関根一美先生をお招きして行いました。その中で加藤哲文先生からは「校内連携体制はあくまで手段。体制を継続しながら、その目的が常に達成されるようにしていくこと」等のご指導をいただきました。

関根先生からは効果がある取組を広げていった事例を紹介していただき、様々なヒントを得ることができました。

参加された先生方の感想として「関根先生の実践にただただ頭が下がる思いです。職員との連携を深めていきます。」「加藤先生のお話から、校内体制のスタンダードの構築が大切だと感じました。基準を設けさらに質の高い体制を作りたいと思います。」など、自校での実質的な取組の変革が期待できる記述が多くありました。



講師の加藤教授 発表者の関根先生

日々の現場での実践こそ、私たちの学びの宝庫

◆8/23(金) 指導補助員・介助員研修 担当 学校教育課 今井由実子 指導主事

井澤 弘子 指導兼管理主事

この講座は、学校教育課の今井由実子指導主事と井澤弘子指導兼管理主事の担当で行いました。その中で、今井指導主事がこれまでの研修のつながりに触れながら、「子どもの自立と集団参加が一番の目標」、「校内での情報交換と連携が大切」等の指導がありました。次に、以前のアンケートから具体的に回答する Q&A 方式で、実際の子どもの言動を取り上げながらの、実践的な研修を行いました。

参加者の方々の感想には「今井先生の具体的な回答で、どう考えどう動けばよいのかわかった。」「井澤先生の『学校職員として子どものために動ける集団に』という言葉が心に残りました。自立力、社会参加力が身に付く支援が私たちの役割だと痛感しました。」等、有益な研修だったことが伺える記述が目立ちました。



各学校の指導補助員・介助員の方々

実際にカリキュラムを作ることで、「なんとなく」から「確かな効果を生む取組」になっていく！

◆9/4(水) 幼保小の円滑な接続

講師 上越教育大学大学院 教授 木村 吉彦 様

この講座は、講師に上越教育大学の木村吉彦教授をお招きして行いました。その中で木村吉彦教授からは、幼児期と小学校児童期における目的論、方法論、評価論の違いに触れながら、だからこそこの時期に「全人的な子ども理解」「成長の連続的捉え」が必要であることを説明されました。また、他市町村での詳細な指導事例も資料として紹介していただき、その後、学区ごとの情報交換に入りました。

参加された方々の感想には「保育園側からのアプローチカリキュラムと小学校側からのスマートカリキュラムの両方で効果が大きくなることを実感しました。」等、教育活動の中に計画的に位置付けていくことの大切さを学んだ講座となりました。



情報交換時 アドバイスをされる講師の木村教授

■ 柏崎教育情報支援システム/コンテンツサーバ情報

資料を登録しました

◆ 柏崎教育情報支援システム

実施日	講座名／資料名
9/12	Word 活用4 Word2010 活用 4 .pdf (第 2 版) Word 活用 4 演習用例題.docx

◆ コンテンツサーバ(教育委員会資料)

登録日	資料名
9/13	ALT News Letter 第 22 号

■ 情報関連講習会のご案内

10 月に実施される講習会

◆ H25.10.22(火) 大型プリンタによる長尺印刷入門

教育センターに整備されている長尺印刷用の大型インクジェットプリンタ (EPSON MAXART) について、横断幕・看板の印刷やワープロ文書の拡大印刷の手順を学習します。MAXART を使用すると

1. 横断幕、立て看板の作成 (幅 61cm で最大 15m までの大きさ)
2. 文書の拡大出力 (A1 ノビまで、ポスター印刷でさらに大きくもできます)
3. 紙原稿の拡大コピー (同上)

などが可能です。



◆ H25.10.30(水) 疑問やトラブルに答える フリーQ&A その5

ICT 活用に関すること、パソコンのトラブルや疑問など、自由に相談できる機会を設けました。他の講座のような事前申し込みは不要ですが、前日までにメールや電話で相談内容をご連絡ください。

■ セキュリティ情報

セキュリティホール情報

マイクロソフトより、9 月 11 日付で 9 月の定期更新として、Windows などの重要な更新が公開されました。最大深刻度「緊急」が 4 件、「重要」が 9 件です。まだ Update が済んでいないようでしたら、至急 Windows Update などを実施していただくようお願いします。

なお、Adobe Reader と Java のアップデートも公開されていますので、画面右下に通知が表示されたら、アップデートを実行してください。Java のアップデート実行時には右のような画面が表示される場合がありますので、ダイアログ内のチェックを外してから「次へ」をクリックして進めてください。



■ 今年度の整備機器のご案内

WindowsXP や Office2003 をお使いの教職員の皆さんへ

来年 4 月に、WindowsXP および Office2003 の延長サポートが終了となり、以降はセキュリティアップデートが提供されなくなる予定です。8 月～9 月末まで、各校の PC 教室系ネットワークのパソコンを Windows7+Office2010 に変更する作業が行われています。

自宅で使用しているパソコンについては、WindowsXP や Office2003 では危険性が高くなるため、そのまま使用を続けることは避けていただかなければなりません。「インターネットには接続していないから大丈夫」という考えは、最も危険であり、ウィルス感染の危険性が非常に高いと認識しなければなりません。実際に、このような利用者が自宅の PC が感染していることに気付いていないまま USB メモリなどを使用し、職場に持ち込んで検出されるというケースが多いのです。ウィルスの侵入は、インターネット経由だけではなく、CD/USB メモリ/SD メモリ/フロッピーディスクなどのメディアからである場合が思いのほか多いのが実情です。「インターネットに接続していない」＝「ソフトウェアのアップデートができない」＝「必要なセキュリティ対策をとることができない」ということになります。



今年度、入れ替え／追加整備される機器

上記の作業と同時に、以下のような機器が入れ替えまたは追加整備されます。追加分はデジタル教科書の利用環境の改善が主な目的です。ぜひ活用してください。

◆追加整備機器：教室用プロジェクタ+タブレット PC(主にデジタル教科書の活用に)



- ・プロジェクタ(教卓から投影できる短焦点タイプ、簡易電子黒板機能内蔵、WXGA、3000 ルーメン)、
- ・Windows8 タブレット PC (ペンで操作ができるので簡易電子黒板機能を使わなくても OK)、



- ・マグネットスクリーン、無線ルータ、HDMI ケーブル(タブレット PC とプロジェクタは HDMI ケーブルで接続する必要があります。3m のケーブル、延長用のケーブル、延長アダプタが整備されます。)

◆入れ替え機器



- ・体育館用プロジェクタ(XGA、5000 ルーメン、従来の SANYO のプロジェクタは 4000 ルーメン)
- ・デジタルカメラの一部(シルバー筐体のデジカメの入れ替え、5m 防水 1.5m 耐衝撃・10°耐低温)
- ・一部の PC(Windows7 の動作に無理があるような PC は入れ替えになります)

研修会・事業の様子

○ 要請研修『聖が鼻・米山海水浴場野外実習』（9月3日実施）比角小学校

◇内 容

比角小学校6年生が米山聖が鼻の駐車場と米山海水浴場にある露頭で観察実習をしました。

「しましまに見えるわけはなんだろう。」「どんなでか方をしたのだろう。」と考えながら、実際に地層に触れたり観察したりしました。大きなスケールの地層を目の前にして、この柏崎の大地ができる長い歴史と地球内部の大きな力を感じたひとときでした。



児童の感想

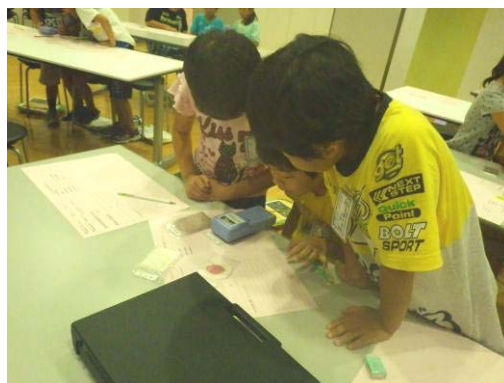
「初めて聖が鼻に来ました。とても大きくて迫力があるなあと感じました。海の中でできた地層が今ここにあることが不思議でした。今度、かけを見たらどんな岩石でできているか見てみたいと思いました。」

○ 要請研修『放射線教育』（9月4日実施）荒浜小学校

◇会 場 原子力広報センター

◇内 容

荒浜小学校3年生を対象に、「放射線って何だろう？」の授業を行いました。初めに放射線の性質や、普段身の周りにあるものからでてくる放射線について学びました。実際に放射線測定器を使って測定する実習も行いました。また、多量に放射性物質が放出された時、人体に与える影響、怖さを学び、自分の身を守る方法についても学びました。盛りだくさんの内容でしたが、3年生なりにいろいろなことを学び、考えた時間でした。



児童の感想

「放射線は放射性物質から出ることが分かりました。いろいろなところに放射線が少しとんでいることが分かりました。少しなら怖くないけれど、たくさん浴びると怖いなと思いました。」

○ 要請研修『液体窒素ってなんだろう？』（9月10日実施）剣野小学校科学クラブ

◇内 容

-196℃の液体窒素を使って、バラや、空気、酸素、ボールなどを冷やして変化を観察しました。空気中に一番多い割合で存在する窒素が冷やされると透明な液体になるのを見て、児童は目を真ん丸に。そして、注いだ液体の窒素はどんどん気体にもどり、あっという間に液体はなくなってしまうのにもびっくりしていました。たくさんのびっくりを見つけることができました。

児童の感想

「空気や、酸素、バナナやボールがあっという間に冷やされたり、凍ったりするのがおもしろかったです。ボールがせとものみたいに割れたのが一番びっくりしました。」



○ 第48回柏崎刈羽地区児童生徒科学作品展開催

◇期 間 9月7日(土)～16日(祝・月) 9:00～17:00

◇会 場 柏崎市立博物館

◇内 容

児童生徒が夏休み中に取り組んだ力作が勢ぞろいしました。開催前日の9月6日には作品の審査会が行われ、講師の先生方がそれぞれの作品を吟味し、賞をつけてくださいました。今年度の出品数は143点。参加校は柏崎刈羽地区37校中24校。出品された作品の数々は、子どもたちのがんばりや、わくわく感が伝わるものが多く、審査員の皆様の顔にも笑顔が見られました。

出品してくださった学校の理科主任の先生方をはじめ、担任の先生方の働きかけに感謝申し上げます。来年は一層多くの児童生徒がやる気をもって、標本作りや顕微鏡スケッチ、観察記録、調べ学習、発明工夫に取り組めるよう、ご支援よろしくお願い申し上げます。

また、開催期間中に作品を見て博物館へ出かけてくださった方が今年度は昨年度より増えました。これもまた、学校を通して児童生徒に働きかけていただいたおかげだと思います。ありがとうございました。いろいろな作品をみてヒントをもらい、また来年以降、科学作品づくりに取り組んでくれる児童生徒が増えることを期待しています。



入賞おめでとうございます！

賞	部門	学校名	学年	氏 名	題 目
柏崎市長賞・金	その他標本	鏡が沖中	1年	大橋 寛人さん	魚の歯・耳石標本
柏崎市教育長賞・金	植物	大洲小	6年	平澤 麗奈さん	柏崎市水源地の植物 春～夏
刈羽村教育長賞・金	貝	瑞穂中	3年	川村 翔太さん	柏崎の小型貝類
柏崎商工会議所会頭賞・金	植物	第二中	1年	阿部 雄輝さん	東山林道(芝峠)道路わきの植物
柏崎青年工業クラブ賞・金	顕微鏡スケッチ	比角小	6年	湯本 真奈さん	色水を吸水させた道管の顕微鏡観察
新潟工科大学賞・金	観察記録	鯖石小	3年	北村 ひなさん	グラジオラスのかんさつ

柏崎市立博物館賞・金	昆虫	比角小	6年	山崎 智晴さん	柏崎市を中心としたカミキリムシ及び甲虫類の標本
柏崎市立教育センター賞・金	貝	日吉小	6年	川村 和輝さん	柏崎の貝標本と研究
金	植物	田尻小	5年	岸 弘貴さん	水の中にある植物とその周りのトンボ
金	植物	比角小	6年	田邊 郁乃さん	豊町地内の休耕田と農道の植物
金	植物	第一中	3年	村田 証さん	柏崎の植物 ～山地と平地の比較～
金	植物	第一中	3年	朝比奈 聖弥さん	柏崎に生息する植物 ～身近な植物と山地の植物～
金	貝	半田小	6年	犬井 慧美花さん	柏崎海岸の打ち上げ貝の生息水深
金	観察記録	大洲小	3年	近藤 諒平さん	キアゲハの羽化
金	観察記録	比角小	5年	小林 理仁さん	セミ（ぼくの家の中とおじいちゃんの庭）
金	観察記録	第三中	1年	長谷川 樹さん	トビズムカデの知られざる姿
金	調べ学習	鯖石小	3年	木本 真白さん	自ぜんをそめよう
金	発明工夫	柏崎小	4年	アハスト ロザリアさん	光と熱のディスプレイ

○ 第48回柏崎刈羽地区児童生徒科学作品展表彰式

◇日 時 9月18日（水） 16:00～17:00

◇会 場 柏崎市立博物館

◇内 容

柏崎刈羽の教育長様や新潟工科大学長様をお招きして表彰式を行いました。

審査員代表の相澤先生からは、受賞した児童生徒さんに今までの努力をお褒めいただきました。「努力すること、面倒なことを避ける傾向にある中、根気のいる作品づくりに積極的に取り組んで、作品展に出してくれたことが素晴らしいことです。習ったことを覚えるような勉強だけでなく、調べてみたいこ



と、分からないことを知ろうとする努力をしてほしいと思います。」と、熱く教育に対する思いを語っていらっしゃいました。教育に携わるものとして考えさせられるお言葉でした。



10月の予定



○ 第48回柏崎刈羽地区児童生徒科学研究発表会

◇日 時 10月3日（木）

◇会 場 教育センター

◇内 容 小中学生が夏休みに取り組んだ科学研究の成果を発表する場です。多くの皆さんからの参加をお待ちしています。参加してくれた児童生徒さんには記念バッジが贈られます。今年のバッジは第一中学校にお勤めの中村 富美子先生からデザインしていただきました。とても素敵なバッジができました。今年のバッジのデザインと意図は以下のとおりです。



最近、夜空を見上げたのはいつですか？最後に星を眺めたのはいつのことでしょう。

2013年は2つの彗星が地球に接近します。3月から4月に見られたパンスターズ彗星と11月から12月にかけて見られるアイソン彗星です。実際にどの程度明るくなるのかは彗星が接近するまでわかりませんが、肉眼で確認できるほどの光度と大きな彗星の尾を楽しむことができると予想されています。

宇宙から見る「夜の地球」はライトで大陸の形がわかると言われています。しかし、時にはせめて家の明かりを消して、屋外に出て、満天の星を見上げてほしいと思います。うつむいては感じられない不思議な感覚を味わってほしいという願いを込めました。

柏崎市立第一中学校 教諭（美術担当） 中村富美子

○ 中学校2年生『電気の世界』

◇日 時 10月9日（水）

◇会 場 教育センター

◇内 容 電流・電圧・抵抗の指導はどのようにしていますか。最初に電子から学び、電流・電圧・抵抗を説明する指導を紹介します。また、実験上のちょっとした工夫も紹介します。

○ 秋の植物観察会

◇日 時 10月18日（金）

◇会 場 鵜川地区

◇講 師 相澤 陽一 様

◇内 容 「この植物の名前ってなんだろう？」「どうしてこんな名前がついているのかな？」
「おいしそうな実だけど食べられるかな？」など植物の名前の由来や、生活とのかかわりを重視した、秋の植物観察会です。この研修に参加すれば、植物の見方が変わり、植物への興味がわきます。また、生活科や理科の時間ではもちろん、さまざまな場面で子どもたちにも植物について語れること間違いなし！

○ 中学校3年生『地球と宇宙』

◇日 時 10月31日（木）

◇会 場 教育センター

◇内 容 生徒にとって苦手な空間のイメージ。これを少しでもイメージしやすくするために有効な指導の工夫や教材の紹介をします。また、今年度購入した太陽望遠鏡（貸出可能）の使い方を紹介します。

11月実施予定の科学の祭典。近々ブーススタッフとしてご協力いただける方を各学校送付の文書にて募集します。ぜひ、11月16日（土）の科学の祭典と一緒に楽しみながら子どもたちの科学の芽を育てましょう！

心の窓

No.169

〒945-1355

柏崎市大字軽井川4803-2

TEL 0257(23)4591(代表)

FAX 0257(23)4610

E-mail soudan@kenet.ed.jp

学校訪問相談

<教育相談>

学校訪問相談では、主に、下記の相談を実施しています。



1 定期学校訪問相談

年1回、柏崎市内全小中学校を訪問しています。今年度定期学校訪問相談は7月に終了しました。

○主な相談内容と課題

相談内容と件数及び割合は下記の通りです。

(柏崎市立全小・中学校)

相談 内容	特別支援 (通常学級在籍)	不登校傾向 不登校	学級経営 学習指導	生徒指導	特別支援 (支援学級在籍)	その他
件数	27件	14件	5件	1件	6件	1件
割合	50%	26%	9%	2%	11%	2%

小・中学校を合わせて平均すると、今年度は相談内容の割合は上記のようになりました。全体としては、通常学級在籍の特別支援を要する児童・生徒の相談件数が増えています。小中別では、昨年同様の傾向が見られましたが、小学校での通常学級在籍の特別支援を要する児童の相談件数が半数になり昨年度より1割増、中学校では、不登校傾向・不登校生徒の相談件数がほとんどになり、約2割増加になりました。小学校においては、学級経営・学習指導とのかかわりも見られ、対応に苦慮していることが伺えました。中学校においては、相談対象生徒の欠席が長期に及ぶものがあり深刻化しているケースや発達特性の特性に起因するケースも見られました。

どの学校においても先生方の発達障害特性理解と校内体制の整備がなされてきています。ぜひ、今後も、発達特性の理解と通常学級における指導の工夫、及び、校内組織を機能させた体制づくりを一層進め、学校体制での対応をお願いしたいと思います。

2 要請学校訪問相談

定期訪問と並行して、要請訪問を実施しています。現在、複数校から依頼を受け訪問させていただいています。通常学級に在籍する特別支援を要する児童・生徒への対応と学級経営、授業改善等を主眼に置き、何回か訪問を重ね一緒になって改善を目指しています。間もなく前期が終了になります。学級経営は年度当初はもとより、長期休業明け・学期始めが勝負です。早目の気づきや複数の目で捉えること、そして、特性を理解した指導・支援が重要となります。

もちろんどのような相談内容でも、どなたからでも結構です。お気軽に要請をしてください。

3 学校サポート協議会

教育センター利用児童生徒にかかわる学校職員、教育センター担当カウンセラー・ふれあいルーム指導員・訪問相談員、元気館や主任児童委員等で協議します。情報を共有し、それぞれが今後の具体策を検討し合っています。現在までのところ4回行っています。

お電話等で連絡いただければ、訪問させていただきます。(派遣申請等の書類は不要です)

【 ☎ 23-4591 教育センター(教育相談係) 】

(文責 学校訪問相談員 春 川 稔)

☆ふれあいルームより☆

<妙高宿泊体験活動>



夜の「キャンドルサービス」では、心を通わせながら話をしたり、また、みんなで楽しくゲームをしました。

2日目は白壁の壁掛け作り。一緒に過ごした時間の中で関係も深まり、会話を弾ませながら和やかな雰囲気で作業できました。

9月11日、12日の一泊二日で「**自然の中での体験を通し、自己を振り返り、集団行動の大切さを学ぶ**」ことを目的とし、国立妙高青少年自然の家へ行ってきました。1日目は講師の「とらきち先生」のご指導で、みんなで力を合わせ、いろいろなことにチャレンジしていく「アドベンチャープログラム」を体験し、



みんなで力を合わせて！！



キャンドルの灯りの前で、素直な気持ちを話すことができました。

準備してきた下絵をもとに白樺の板に絵付け

この宿泊体験を通してお互いのことを思いやったり、協力することの大切さを知ったりすることができました。また、他の団体や施設の職員の方々との交流も良い経験となり、成長につながった貴重な2日間でした。

(ふれあいルーム指導員 須藤直子)

教育相談班 10月の予定



《カウンセリングルーム》

いろいろ体験グループ (SST)

- 4日(金) 16:30~17:30 小学生Aグループ
- 11日(金) 16:30~17:30 小学生Bグループ
- 18日(金) 16:30~17:30 小学生Cグループ
- 24日(木) 18:30~20:00 中学生第1グループ
- 25日(金) 18:30~20:00 中学生第2グループ

《ふれあいルーム》

- 9/31~2日(月~水) 三者面談
- 4日(金) ソフィアセンター
前期通級終了日
- 8日(火) 後期通級開始日
- 8~11日(火~金) 学校訪問
- 24日(木) 陶芸教室 ①

10月の行事予定表

日	曜	研修・行事・会議
1	火	研:学級づくり講座 ふ:三者面談
2	水	ふ:三者面談
3	木	科:第48回科学研究発表会13:00-
4	金	ふ:前期通級終了・ソフィアセンター 相:SST小Aグループ16:30-
5	土	育:小PTA育成(学番奇数校)
6	日	
7	月	
8	火	ふ:後期通級開始・学校訪問 相:適応指導連携会議13:00- 育:夜間育成
9	水	科:中2「電気の世界」 ふ:学校訪問
10	木	ふ:学校訪問
11	金	ふ:学校訪問 相:SST小Bグループ16:30-
12	土	
13	日	
14	月	
15	火	
16	水	
17	木	
18	金	研:指定研究発表会「教育課程」(北鯖石小)13:30- 科:秋の植物観察会14:30- 相:SST小Cグループ16:30- 育:昼間育成
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	研:授業づくりゼミ④ 情:長尺印刷入門
23	水	
24	木	研:虐待防止講演会(市民プラザ) ふ:陶芸教室① 相:SST中①グループ18:30-
25	金	研:柏崎の同和問題とこれからの同和教育 相:SST中②グループ18:30- 育:夜間育成
26	土	
27	日	
28	月	
29	火	研:全校体制で進める毅然とした生徒指導
30	水	情:フリーQ&A
31	木	科:中3「地球と宇宙」
		研・教育研究班 科・科学技術教育 相・教育相談班 ふ・ふれあいルーム 情・情報教育研修 育・育成センター



所 員 随 想

まほうのことばのコミュニケーション

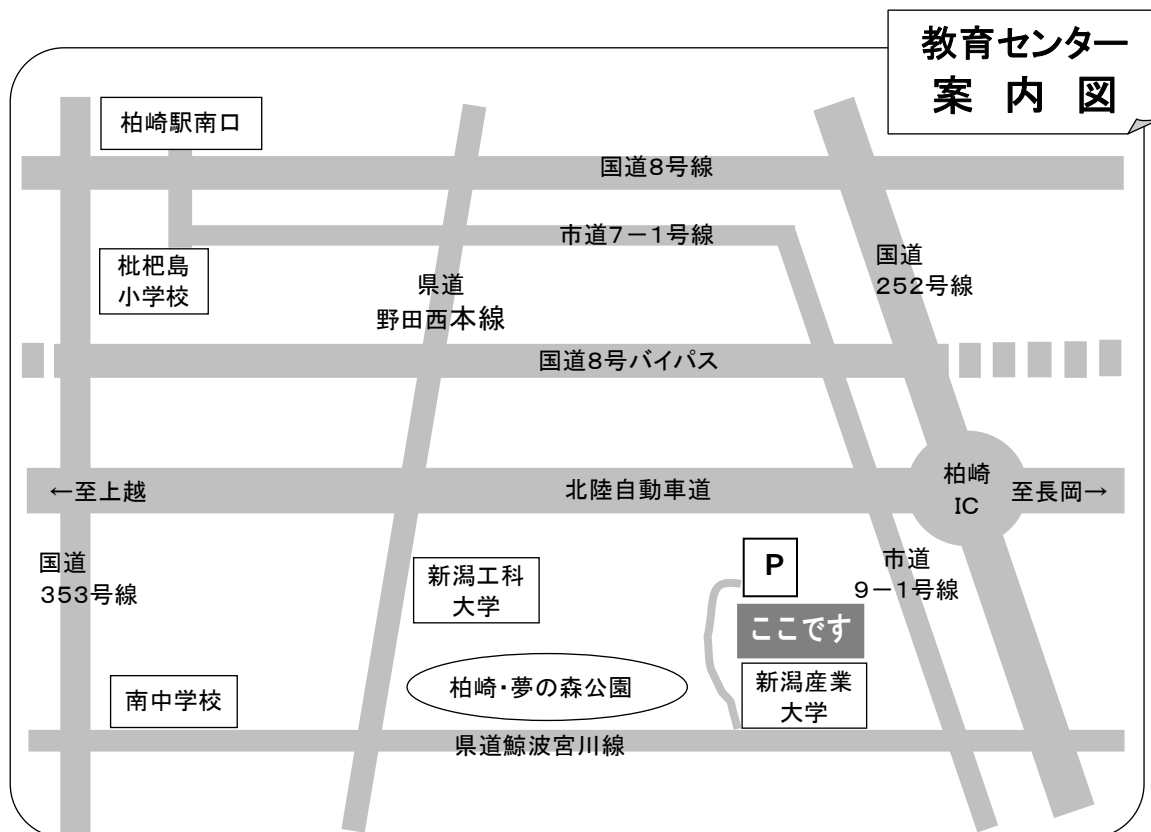
教育研究班情報指導員 草間宏樹

ここ2ヶ月ほど、作業のため市内の小中学校を訪問しているのですが、児童・生徒の皆さんに「おはようございます」や「こんにちは」と挨拶される事が多々あります。私が小学生の時は、校内で先生以外の人に対しての挨拶はあまりなかったと記憶しているので、とても素晴らしいことだと思います。

挨拶はコミュニケーションの第一歩とよく言われますが、ディズニーランドでは、従業員はお客様に対して「いらっしゃいませ」ではなく、「こんにちは」と挨拶するとのことです。「いらっしゃいませ」は一方的であるため、「こんにちは」と声をかけることにより、互いに言葉を交わし、コミュニケーションを取ることができるという考えからきているようです。

また、先日「あいさつ+1」という言葉を目にしました。普段の挨拶に何かひとつ情報を追加することで、会話のきっかけが生まれるとのことです。確かに、「こんにちは」よりも「こんにちは。今日はいいお天気ですね」のほうが距離もグッと近づきますし、話も広がる気がします。

毎日の生活でしている挨拶も、少し変えるだけでさらに世界が広がり、新しい発見をすることもできそうです。少し前のTVCMでもありましたが、まさに「まほうのことば」だと思います。



〒945-1355 柏崎市大字軽井川4803番地2（新潟産業大学キャンパス内）

※路線バスは、柏崎駅南口から新潟産業大学行きをご利用ください。

※車でお越しの方は、キャンパス内では徐行をお願いします。

教科書センター利用案内

柏崎刈羽の小・中学校で使用している教科書のほか、各教科書会社の小・中学校の教科書各2冊、高等学校の教科書各1冊を備え付けています。どなたでも閲覧することができるほか、小・中学校の教科書は、貸し出しも行っています。

教育センター代表TEL：0257-23-4591

代表FAX：0257-23-4610

E-mail：k-center@city.kashiwazaki.niigata.jp

教育研究班・情報教育TEL：0257-23-1168

E-mail：kec@kenet.ed.jp

教育研究班（科学技術教育）TEL：0257-20-0212

E-mail：kagaku@kenet.ed.jp

教育相談班（カウンセリングルーム）TEL：0257-32-3397

E-mail：soudan@kenet.ed.jp

教育相談班（電話相談）TEL：0257-22-4115

青少年育成センターTEL：0257-20-7601

E-mail：ikusei@city.kashiwazaki.niigata.jp

教育情報支援システム URL：http://kedu.kenet.ed.jp

平成25年9月発行

=====